

27. 皮膚科（選択）

1. 一般目標（G I O）

皮膚科医以外の医師として外来診療で遭遇する可能性の高い皮膚疾患の病態と診断、および治療法を一か月で理解する。

2. 具体的目標（S B O s）

（1）行動目標

1) 患者医師関係

患者の話をよく聴き、患者や家族とコミュニケーションを円滑に行え、必要な治療法を説明し、適切なインフォームド・コンセントが実施でき、患者のプライバシーに配慮できるようになる。

2) 患者の診察とカルテの記載

患者を問診し、皮膚所見をとり、臨床診断および鑑別診断を行い、適切な検査法と治療法をプレゼンテーションでき、その内容をカルテに記載できるようになる。

3) リスクマネジメント

診察、投薬、生検、手術、処置などの際に起こりうるリスクを挙げ、対処方法を習得する。

4) 皮膚生検

問診や理学所見だけでは臨床診断が困難な皮疹に対して皮膚生検を施行し、適切な皮膚縫合ができるようになる。

5) 軟膏処置

アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の軟膏処置を実践できるようになる。

6) 創傷処置

熱傷（低温熱傷）や外傷、術後創傷、抜糸などの創傷処置を実践できるようになる。

7) 病理組織

いくつかの皮膚疾患のH&E標本を顕微鏡で観察し、正常表皮との違いを理解できるようになる。

8) 皮膚悪性腫瘍

医師が日常診療で遭遇しやすい皮膚悪性腫瘍について理解できるようになる。

（2）経験目標

1) 帯状疱疹の診察と治療を行う。

2) アトピー性皮膚炎の診察と治療を行う。

3) 尋常性乾癬の診察と治療を行う。

4) 熱傷の診察と治療を行う。

5) 接触皮膚炎の診察と治療を行う。

6) 急性湿疹、慢性湿疹の診察と治療を行う。

7) 単純疱疹の診察と治療を行う。

8) 蕁麻疹の診察と治療を行う。

9) 虫刺症の診察と治療を行う。

3. 方略

(1) 外来診療

指導医の外来を毎日午前中に見学し、必要に応じて初診患者の問診を行い、カルテに記載し、必要な検査と治療についてプレゼンテーションを行う。

(2) 皮膚生検及び手術

生検が必要な皮膚疾患に遭遇した場合は、指導医の監督下でこれを実行する。また、手術の必要な皮膚疾患に遭遇した場合は、指導医の監督下で助手をするか、状況に応じて執刀医となる。生検と手術は午後に行う。

(3) 入院治療

入院による治療が必要な場合は、必要な検査や治療、他科への依頼、病棟での適切な指示を指導医とともに行う。

4. 評価

形成的評価は研修医の皮膚科疾患医関する知識、処置や手技の能力に基づいて行う。総括的評価はEPOC2に基づいて行う。